

（参考資料）高病原性AI（H5N6）の発生、効果的な予察と初動対応で病気の拡散防ぐ

出典URL：

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGWFmcmEIMkY2OCUyRjMxNjk5NSUyRmFydGNsVmIldy5kbyUzRnJnc0VuZGRlU3RyJTNEJT12YmJzT3B1b1dyZFNlcSUzRCUyNnBhc3N3b3JkJTNEJT12cGFnZSUzRDEIMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdjUzRDEwJT12YmJzQ2xTZXEIM0QIMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJT12aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJT12c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

（機械翻訳等に基づく仮訳）

主な内容

- ◆ 農林畜産検疫本部（本部長パクボンギョン）は18年3月8日の疫学調査委員会（AI分科）を開催して、今回の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI、H5N6）発生と疫学的状況について議論した
- ◆ 疫学調査委員会（AI分科委員長キム・ジェホン）は今回発生した高病原性AI（H5N6）は、ヨーロッパで流行したH5N8亜型ウイルスと低病原性AI由来N6が組換えられた、少なくとも2つ以上の異なるウイルスのグループが冬期渡り鳥を介して国内に流入したものと推定した
- ◆ 今回の発生農場のほとんどは周りに渡り鳥の生息地と農耕地があり、野鳥糞便に汚染された車両や人、野生鳥獣類等により農場内に流入されて発生したものと推定した
- ◆ 今回発生したHPAIは、緊急行動指針（SOP）より1～2日早い緊急初動対応、関係省庁、自治体との迅速な状況の共有や協力システム、系列所属農場発生における予察と一斉検査の強化などの強力な防疫対策の推進と、農場の迅速な申告を通じた初動対応により、拡散を最小限に抑えた
- ◆ 農林畜産検疫本部は渡り鳥北上に伴う遮断防疫と、既存の発生農場における事後管理の徹底、伝統的な市場、仲介商人係留、小規模な防疫脆弱対象などについて防疫主体別徹底遮断防疫を要請する

□ 農林畜産検疫本部（本部長：パクボンギョン）は、17年11月16日から国内で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5N6 HPAI）に関連して、疫学調査委員会AI分科委員会（委員長：ソウル大獣医学部キム・ジェホン教授）を、3月8日に開催したと明らかにした。

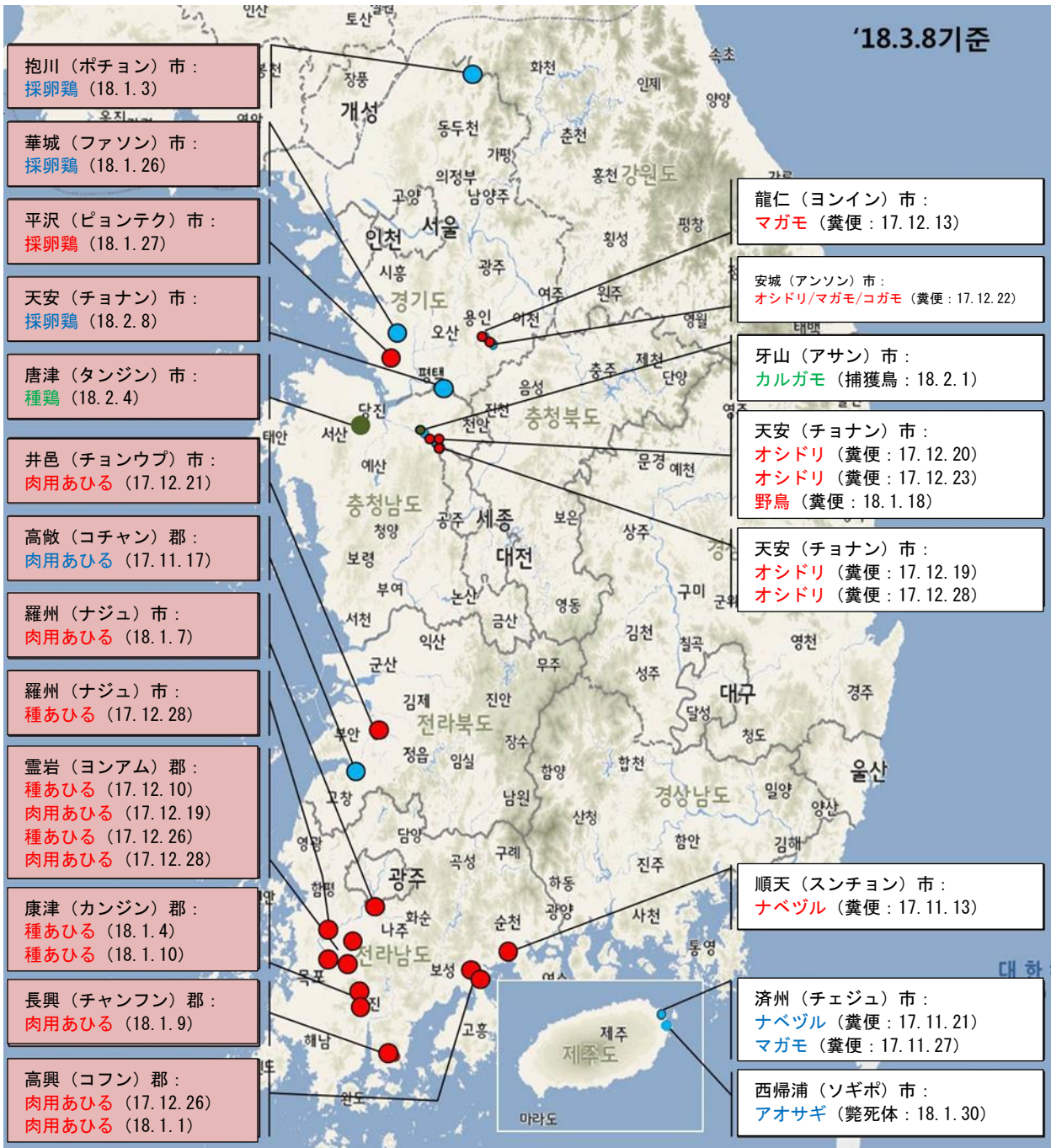
\* 疫学調査委員会（AI分科）：獣医大学、医科大学、環境省などの関連省庁、防疫関連機関、渡り鳥の専門家や生産者団体など約30人で構成される

○ 疫学調査委員会は、全羅北道高敞郡農場（肉用あひる）で17年11月16日に初めて発生してから、18年3月8日現在までの発生事例について、国内流入を引き起こし、農場発生原因となったウイルス遺伝子の分析結果等について疫学調査員の集中的な討論があった。

- (国内流入) 疫学調査委員会では、今回の高病原性AI (H5N6) の発生は、ヨーロッパで流行したH5N8亜型ウイルスと低病原性AI由来N6が組換えられた、少なくとも2つ以上の異なるウイルスのグループが冬期渡り鳥を介して国内に流入したものと推定した。
  - 最近、国内の家きんと野鳥から分離されたH5N6亜型ウイルスは、同じclade2.3.4.4.Bグループに属するが、相同性の差あるいは内部遺伝子組換え的に異なる3つのタイプが確認された。
    - \* 今までに分類されたウイルス遺伝子は、高敞型、霊岩型、唐津型に分類
    - \* 高敞型は17年2月6日のギリシャの家きん、17年11月5日の日本の野鳥、17年12月1日の台湾の野鳥から分離されたウイルスと高い相同性が確認された
    - \* 霊岩型は17年12月18日のオランダの野鳥から分離されたウイルスと高い相同性が確認された
    - \* clade : 遺伝子系統分類基準
  
- (原因) 今回の発生農場のほとんどは周りに渡り鳥の生息地と農耕地があり、野鳥糞便に汚染された人や車両等により流入したり、野生鳥獣類等により農場内に流入したりして発生したものと推定した。
  - \* 農場内流入 : 車両 (8件、44.5%) > 野生鳥獣類 (6件、33.3%) > 作業員 (4件、22.2%)
  - \* 畜舎内流入 : 従業員 (16件、88.9%) > 野生鳥獣類 (2件、11.1%)
  - \* 全羅南道、全羅北道の高敞郡、霊岩郡、井邑市などにおける最初の発生農場では、農場周辺に多数の渡り鳥が観察され、農場主は農場周辺農地で耕作をしていた
- 防疫脆弱農場や一部地域の発生農場の発生状況から、水平伝播と機械的伝播の可能性があると判断した。
  - \* 全羅南道霊岩郡における抗体検出農場は、一部地域では親戚経営であったり、農道を共有していたりなど、隣接・密集飼育を通じた近隣での伝播により、周辺の農場へ容易に伝播したと推定
  
- (病原性検査) 疫学調査委員会では、今回の発生が鶏では高い致死率と少ない濃度でも感染が可能であるのに対して、あひるでは臨床症状と斃死が確認できなかったが、感染初期からウイルスの排出が確認されており、疾病伝播の要因として作用するという点に注目した。
  - \* 鶏 : 接種群では100%斃死、IVPIは2.94~2.98、半数致死濃度 (LD<sub>50</sub>) は10<sup>2.2~3.4</sup>、過去に流行したH5N1 (03~10年)、H5N6 (16/17年) と平均致死時間 (MDT)、LD<sub>50</sub>が類似の水準
  - \* あひる : 感染後14日まで臨床症状と斃死なし (ウイルスの排出は、感染1~7日目まで確認)
  
- (防疫措置) 今回の発生は、緊急行動指針 (SOP) より1~2日早い緊急防疫措置 (早期殺処分、予防的殺処分の拡大、迅速な一時移動停止等)、関係省庁、自治体との迅速な状況の共有や協力システム、系列所属農場発生における予察などの強力な防疫対策の推進と、家きん農場の迅速な申告を通じて、拡散を最小限に抑えた。
  - \* 16/17年の予防的殺処分農場における検査ではAI陽性率が30% (207/693件) に達したが、今回は迅速な遮断措置時によって陽性未検出 (0/86件)

- また、野鳥においてH5亜型ウイルス検出時の防疫措置強化と徹底した予察、SNS活用を通じた警戒心の鼓吹と、8大防疫脆弱重点管理対象\*を選定して、先制的に強力な防疫対策の推進したことを高く評価した。
  - \* 8大脆弱：渡り鳥の飛来地、密集飼育、卵集荷場、小規模・高齢農家、伝統的な市場など
  
- （勧告）疫学調査委員会では、野鳥間における持続伝播の可能性と、発生農場における事後管理や防疫脆弱地域における防疫措置が不十分である畜産関連の人や施設などによる機械的伝播の危険性を強調しながら、次のように勧告した。
  - 野鳥による持続発生の可能性があり、野生鳥獣類遮断防疫のために、農場単位の自律責任防疫強化と迅速な申告が重要であることを強調した
  - また、関連会社、自治体など防疫の主体である人、車両、野生鳥獣類を介して農場内汚染源が入らないように、家きん農場における早期予察、消毒、検査、施設の改善などを通じた再発防止とAIの予防対策の推進を強調した。
  - 特に、農場形式ごとに、小規模農場や生きた家きんが取引されている伝統的な市場など、防疫脆弱農場の、さらに徹底した予察と管理など、先制的防疫措置を勧告した。
  
- 農林畜産検疫本部では、強化された防疫措置をパラリンピック終了（～3月18日）まで維持し、疫学調査委員会で勧告した疫学調査官教育とCCTV設置の義務化、畜産車両のGPS装着対象範囲の拡大など、制度の整備とAI予防のための省庁や国際協調コラボレーションシステムの構築等についても、政策に反映するように努力する一方、防疫脆弱地域等の防疫主体別徹底遮断防疫を通じて、高病原性鳥インフルエンザの早期根絶のために最善を尽くすと述べた。

(添付1) 発生農場と野鳥検出分布



- \* 高敞型 (Gr1) : 高敞郡、抱川市、華城市、安市、濟州市、西帰浦市
- \* 靈岩型 (Gr2) : 靈岩郡、井邑市、高興郡、羅州市、康津郡、長興郡、平沢市、順天市、龍仁市、安市、安城市
- \* 唐津型 (Gr3) : 唐津市、牙山市 (家きん、野鳥)



(添付2) 関連写真

